

ワシントン大学 報告書

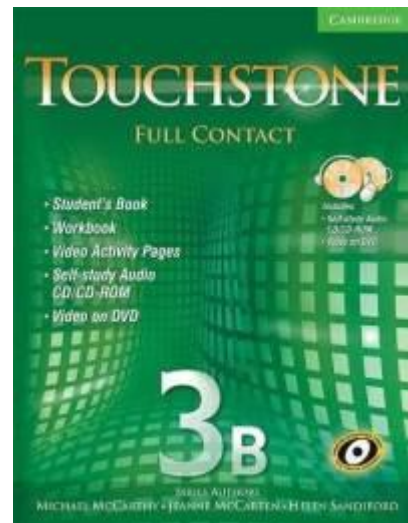
北海道教育大学札幌校 2年 堀川舞

(1) プログラムで受講した授業に対する印象、コメント

このプログラムでは、主にテキストを使った文法学習、映画を鑑賞することでの比較文化、大学周辺を探検する課外学習が行われました。

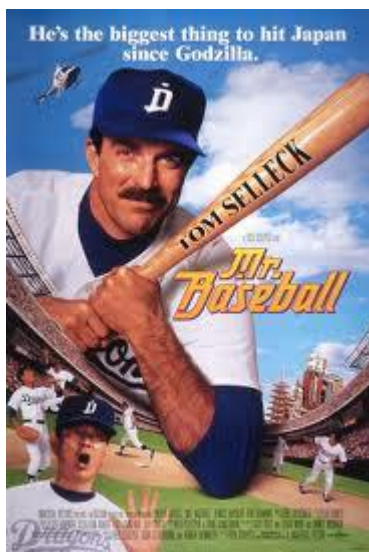
・テキストを使った文法学習

日本ですでに学習したことのある仮定法や、英語をどのように変化させると敬語表現になるのか、などを学習しました。手を挙げて発言するのではなく、生徒から積極的に発言する生徒が主体となる授業でとても新鮮でした。先生が言葉で説明するだけでなく、絵の使用や、ジェスチャーを交えることで説明して頂いたおかげで、内容をよく理解することができたと感じています。文法では、間違えやすいポイントを再認識することができました。また、その文法を使って会話を作る活動が多く盛り込まれていて、自分で作った文章は記憶が定着されやすいと実感することができました。となり同士でのグループワークが多く、授業を通して友人同士の絆を深めたり、助け合ったりすることができたと考えます。



【画像：使用テキスト】

・映画の鑑賞



【画像：映画の表紙】

「Mr. Baseball」という映画を鑑賞しました。簡単なあらすじとしては、ニューヨーク・ヤンキースのスター選手のジャック・エリオットが、日本の中日ドラゴンズへトレードされて、日本とアメリカの文化の差に戸惑うエリオットでしたが、最終的にハッピーエンドとなるストーリーです。この映画から、学んだことは3つあります。1つ目は、時代によって、日本の文化が変化してきているということです。「飲み物をそそぐのは女性の役割、という考え方が当たり前」というシーンが登場したときにこのことを強く感じました。2つ目は、アメリカ人から見た日本を知ることができたということです。日本を見るときに色眼鏡をかけて見ているのかもしれない、と感じました。ステレオタイプの日本の家庭が描かれていて、実際の日本とは違うのでは

ないかという疑問を抱くことがありました。例えば、日本の家です。庭には松が植えられており、居間には畳があるという家庭は、現在ではそのような様式ではない家庭が多いのではないかと感じました。私のクラスで先生が「あなたの家庭では、椅子に座って食事をするか、否か。」という質問を投げかけたところ、ほとんどの生徒が椅子に座って食事をすると答え、驚いていました。

・課外学習

Fremont と Wallingford という場所に行きました。名所をめぐったり、地元住民の方々にアンケート調査をしたりしてデータをまとめ、Fremont ではレポートの提出、Wallingford では生徒全員でガイドブックを作るというプログラムでした。この活動を通して、多くの方と英語で話しすることができて、生の英語を聞くことができました。どの方も、丁寧に質問に答えて頂き、優しい方々でした。



【画像：Fremont Troll】

私は Wallingford で Health が研究テーマのチームでした。そこで、病院や、老人ホーム、ベジタリアンレストラン、などの施設を訪れ、アンケートを取りました。

アンケートを集め、わかったことは、そこにすむ人々は皆、地域に対して愛着を持っているということです。人が温かい、ぬくもりのある地域という回答が多く寄せられ、地域の絆を実感することができました。その他、Wallingford では、オーガニック食品や健康に気を使った食が特色の1つであることを知ることができました。地域の農家と連携して運営されているレストランがあり、地産地消が行われているということに気が付くことができました。レストランと同時に、ヨガ教室も開いている場所もあり、人と人とのつながりをとても大切にしている地域を感じるすることができました。

（2） ワシントン大学での生活体験

敷地が広く、毎日に発見のある大学生活を送ることができたと考えます。とくに驚いたことは、様々な国の料理を味わうことのできる University district というストリートがあったことです。様々な国から大学へ学びにくる学生への配慮ではないかと考えます。私も、日本の雑貨が売られているお店に行ってみました。すると、そのお店に入った途端、お香の香りがぶんぷんとしてきて、日本とは違う雰囲気を持ったお店で驚きました。日本人がイメージする日本と、外国人がイメージする日本とのギャップを感じました。大学内には、図書館や博物館があり、研究したいテーマに対する資料を手に入れる環境が整っていました。コンピューターも大学の ID があれば自由に使えますし、博物館も学生は ID があれば無料で入場することができるようになっており、便利だと思いました。実際に博物館へ行って見たところ、ワシントン州の歴史や火山のしくみ、様々な民族の生活の展示、恐竜の骨などが展示されていました。ちょうど小学生たちが博物館内において授業が行われていたようで、様々な年代層に貢献している施設なのだと感じました。

(3) シアトルの都市の様子

気温は朝と夜がとても寒く、昼は北海道の二倍ほどの暑い日差しが照りつける、寒暖の差が激しい都市でした。都市には、様々な人種の方がいらっしゃいました。道を尋ねると笑顔で答えてくれる方が多く、ぬくもりのある都市であると感じました。しかし、ダウンタウンのバス停付近には、ホームレスの方が多く生活しており、最初のうちは慣れずに怖いと感じていました。スターバックスが多く存在しており、驚きました。カナダの Victoria という地に観光で行きましたが、スターバックスの店舗の数を比較し、改めてシアトルのスターバックスの多さを実感しました。シアトルセンター、ダウンタウン、大学周辺のストリート、Fremont、Wallingford、パイオニアスクエアなど地域によって雰囲気が違うところがおもしろいと感じました。



【シアトルの夕焼け】

(4) 次回の参加者に伝えたいこと

ぜひ、カナダに行ってください。そして、アメリカのシアトルとの比較を感じてほしいです。また、似た部分も感じてほしいです。ダウンタウンや大学周辺では、すりに気を付けて下さい。私の友人で1人、すりにあってしまった子がいます。英語をたくさん使ってください。授業も、積極的に発言するように心がけると良いと思います。私は、ホストマザーと食事のときに会話したあと、食後、テレビをみながら会話をし、学校でも授業で発言をし、英語を話すことがふつうになりました。3日後には、夢の中の言語が英語になっていました。積極的に会話することで、スピーキング力の向上は自分自身ではよくわかりませんが、リスニング力は確実に向上したと実感しています。また、毎日日記を英語で書くと良いと思います。帰ってきたときに思い出になりますし、英語力のライティング力の向上につながると思います。辞書をひく機会も増えました。ぜひ、心がけてみてください。